

広報

もり 中部の森林

迎春

写真：御嶽山から望む光芒（岐阜署・木曽署管内）

私の森語り「山は命の源」
名古屋学院大学 教授 今村 薫

令和7年 年頭のご挨拶

各地からの便り

- ・地域住民を対象とした治山見学会 ほかシリーズ
- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



2025/No.250



林野庁中部森林管理局



令和七年 年頭のご挨拶

新年明けましておめでとございます。
 日頃より国有林野の管理経営に
 特段のご支援とご協力を賜り、心
 より御礼申し上げます。

昨年は、一月の能登半島地震、
 六〇九月の豪雨など各地で大きな
 自然災害が発生しました。被災さ
 れた方々にお見舞いを申し上げます
 とともに、被災地の復旧・復興に
 ご尽力いただいている皆様方に感
 謝申し上げます。

富山県・長野県・岐阜県・愛知
 県の四県にまたがる当局管内には
 急峻・複雑な地形と脆い地質を有
 する森林も多く、山地災害の防止
 国土強靱化のため、国有林はもと
 より民有林も含めた地域全体の防

災・減災・災害復旧対策などが必
 要と考えています。一例としまし
 て、昨年の七月豪雨により長野県
 の上高地で発生した土石流への対
 策として、国有林においても直ち
 に応急対策を実施し、本格復旧工
 事については、地元の要望に沿う
 形で、観光シーズンの利用に配慮
 し、入林者の少ない冬期に実施し
 ているところです。

また、地球温暖化や生物多様性
 の保全など森林の公益性に対する
 国民の期待は高く、公益的機能を
 発揮させるための適切な事業の実
 施に加え、針広混合林への誘導、
 樹種・林齢が異なるモザイク状の
 森林など生物多様性保全に配慮し
 た森林づくりを推進します。さら
 に、健康・観光・教育等の分野で
 体験サービス等を提供する「森林
 サービス産業」の創出を目指す地域

の活動を応援します。当局管内で
 は、長野県で八つ、岐阜県で四つ、
 愛知県で一つの計十三の自治体に
 「森林サービス産業推進地域」へ登
 録いただいております。国有林と関わ
 る地域も数多くあります。急峻な
 地域から都市近郊まで、管内各地
 の多様な森林それぞれの特色を活
 かした取組が拡がり、多くの方が
 森林を訪れることにより地域振興
 へとつながることを期待していま
 す。

一方、当局管内の人工林の主体
 は五〇〜六〇年生で、木材として
 の利用期を迎えており、伐採・造
 林一貫作業、再造林の低コスト・
 省力化などの「新しい林業」の実現
 に向けた効率的な施策の推進に一
 層取り組んでまいります。

また、多様な森林資源を有する
 国有林の特性を活かし、伝統的建

築物・文化財、大型公共建築物な
 どの資材ニーズにも対応していま
 います。

さらに、花粉症発生源対策の着
 実な実施やシカ等による野生鳥獣
 被害対策、森林・林業に関わる人
 材の育成など、民有林・国有林を
 通じた共通の課題について取り組
 んでいくため積極的に役割を果た
 していく考えです。

私事になりますが、現場勤務の
 振り出しは中部局管内でした。
 三十数年ぶりにこの地に戻り管内
 を訪問し、特色ある森林資源だけ
 でなく、地域文化の伝承や新たな
 取組に挑戦する方々など各地の魅
 力をあらためて感じています。

森林・林業に関わる課題やニー
 ズは多様化・
 高度化してい
 ますが、地元
 自治体をはじ
 めとする関係
 者の皆さまと
 連携して解決
 に向けて取り
 組んでまいり
 ます。



森林ボランティア・

NPO連携推進会議を開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

十月二十九日・三十日の二日間、長野県小諸市の「安藤百福記念アウトドアアクティビティセンター」において、ボランティア団体代表及び当センター主催による「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催しました。

この会議は、中部局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて更なる資質の向上と連携強化を図ることを目的に、平成二十一年から開催しています。

一日目は、会場近くにある、漬物や酒などを貯蔵する天然の冷蔵庫として、その一部が現在も活用されている「氷風穴」の散策や、各団体の活動紹介、連携推進会議の今後に向けた意見交換などを行いました。

二日目は、ワークショップ体験会が行われ、会場敷地内から伐り出した竹を利用した遊具作りが行われ、竹馬や竹とんぼのほか、ス



プーンなども作成されました。

二日間を通して参加者からは、「情報交換が出来て良かった」「来年も参加したい」などの感想が聞かれましたが、会員の高齢化や後継者不足が課題となっている団体もあり、今回の会議を通じて、活動や連携のあり方など、参考となる情報の共有が図られました。

当センターでは、今後も管内の各地で活動されるボランティア団体等の連携を支援してまいります。



参加者全員で記念撮影

近隣市町村職員に向けた無人航空機操作講習会を開催

【森林技術・支援センター】

十一月二十日、下呂市あさざり体育館において、ドローン操作の初心者等を対象とした無人航空機操作講習会を開催し、近隣市町村及び飛騨・東濃森林管理署の職員など十名が参加しました。

ドローンは、森林の全体像の把握や災害発生現場の確認、地形測量など多岐にわたり活用されていますが、使用にあたっては、機器に精通した者が少数にとどまり、無人航空機に関する各種法令や手続き等を把握する者についても限られている現状にあります。今後更に有益で効率的なドローンの活用を図るためには、より多くのドローン操縦者の育成が急務なことから、当センターでは令和三年から講習会を実施しています。

講習では、無人航空機の関係法令や基礎知識、操作方法等の座学を行い、受講後に参加者を三班に分け、パイロンを設置した基本的な操作技術や画像を確認しながら



ドローンを操縦する受講生

の飛行実習を行いました。

参加した市町村職員からは、「初めてドローンを扱ったが、側にスタッフがいたので安心して使えた」「林道災害時に危険な場所や対岸等からの被災地の確認に役立つと思う」などの感想が寄せられました。

今後も市町村等職員を交えた講習会を積極的に計画し、それぞれが担当する現場でドローンを活用できる人材の育成に寄与してまいります。

**集落上流での対策を実感
地域住民を対象とした治山見学会**

【飛騨森林管理署】

十一月二十二日、岐阜県高山市奥飛騨温泉郷に所在する福地国有林にて、地域住民を対象とした治山工事現場の見学会を行いました。

この取組は、集落の上流で実施している治山工事現場を実際に見学することにより、事業に対する理解を深めていただけるよう企画



木製型枠を利用した治山ダム（溪間工）

したもので、地域から十六名が参加しました。見学場所は、オソブ谷と呼ばれる溪流の上流域で、普段は美しい溪流ですが、令和二年の七月豪雨により土石流が発生し、周辺は著しく荒廃しました。被災した当時、直径四メートルを超える巨石が押し流され、見学した工事現場の上流にはその痕跡が残されています。福地地区ではこの溪流から取水し、生活用水として利用しており、重要



工事の概要等について説明を聞く参加者

な水源にもなっています。治山事業による森林の造成に期待が持たれていることから、参加者は治山担当者が説明する内容を熱心に聞いていました。

また、現地では参加者から、施工された治山ダム（※）の表面を覆っている木製型枠について、樹種や構造物の耐久性への影響など、率直な質問が出されました。以前は、メタルフォームといった



木製型枠について説明を聞く参加者

鉄製の型枠を使って施工していましたが、近年では、資源が豊富で循環利用が可能な国産の木材（当該現場では、杉材を使用）を有効に活用しており、完成後も現地にそのまま残す「存置型」の型枠材として利用しています。この型枠は、木材が腐食しても内部のコンクリートが劣化しない限り構造物の耐久性に影響はないことや、公共構造物への国産材の積極的な利用について説明を行い、理解を深めていただきました。

地域の山のの上流に国有林があることは知っていても、初めて入ったという方々が多く、過去に施工された何十箇所という治山ダムを目にすることで、上流での地道な工事が生活の安全に役立っていることを実感している様子でした。当署では、地域の安全と健全な林地への回復を目指し、今後も地元や地域の関係者と連携しながら計画的に治山工事の推進に努めてまいります。

（※）今回見学したのは、溪流内に施工した「溪間工」ですが、一般の方にはイメージしにくいいため、「治山ダム」の表現を用いています。

初心者も簡単に捕獲できる
小林式誘引捕獲法の
現地検討会を開催



【東信森林管理署】

十一月二十五、二十六日の二日間、佐久市の荒船山あらかねやま国有林において、小林式誘引捕獲法現地検討会を開催しました。

ニホンジカによる被害は全国で拡大し、森林・林業分野にとどまらず、農業分野にも大きな被害を及ぼしています。当署管内においても新植地の苗木被害や、樹木の



現地検討会で説明を聞く参加者



考案者の小林氏による「わな」設置の説明と実演

剥皮被害はくひが確認され、増えすぎたニホンジカの個体数管理が地域の大きな関心事となっています。こうした背景から、初心者でも簡単かつ効率的に捕獲が可能な小林式誘引捕獲法を普及するため、長野県佐久地域振興局と連携し、地元自治体や猟友会等呼びかけ、約四十名が参加しました。

一日目は、この捕獲法を考案した林野庁経営企画課の小林正典氏（以下「小林氏」）本人による設置方法の説明と実演が行われました。参加者は技術を習得するため、真剣な眼差しを注いでいました。そ



EV自走式冷却搬送機保冷装置の内部

の後、八班に分かれて実際に「くくりわな」（以下「わな」）を設置し、小林氏が巡回しながら設置状況を確認し、改善点などの指導を行いました。この日参加者が設置した「わな」は、有害鳥獣の捕獲等許可を受けた職員（有害鳥獣捕獲従事者）が最終確認を行い、さらに付近の林道沿線にも追加で設置し、合計三十基を仕掛けました。

二日目は、仕掛けた「わな」で捕獲された個体を使用し、安全な保定（個体の動きを制限）や止め刺し方法、「わな」の見回り時・止め刺し時における留意点の指導が行われ、捕獲個体を安全に処理する方法を確認しました。



現地でのEV自走式冷却搬送機のデモンストレーション

また、捕獲したニホンジカのジビエ利活用に向けて、捕獲現場から処理施設まで冷やしながら搬送するシステムを開発した「オンサイテック(株)」の西澤社長によるEV自走式冷却搬送機のデモンストレーションも行われ、参加者は興味深く見入っていました。

検討会の最後に参加者へのアンケートを実施したところ、小林式誘引捕獲法を実践してみたいとの意見が多く寄せられました。今回の検討会を機に、今後も地域での効率的な捕獲技術の普及に努めてまいります。

木曾ヒノキが繋ぐ木の文化
中津川市外交へ的一端を担う



【東濃森林管理署】

十一月二十七日、当署署長が中津川市長を訪問した際、木曾ヒノキが繋ぐ、他の自治体との交流等について話題になりました。

発端は、今年の九月、中津川市長から「木曾ヒノキ備林を一度見学したい」との要望を受けて行った現地案内に遡ります。市長から

「姫路城の昭和の大改修で加子母裏木曾国有林から城の西側の心柱を供給した縁で今も姫路市との交流は続いている」との話があり、

当署署長が姫路城以外にも国内の多くの歴史的建造物にこの地の木曾ヒノキが使われていることを説明したところ、「実際にどのような場所へ供給されたのか知りたい」と興味を示されました。後日、当署が保存する資料から、戦後復興期からの主な納入先リストを提示したところ、市長は、深く感銘を受けられ、事ある毎にこの話題に触れていただけのようになりました。そして「今後、他の市町村

の方々と交流する際、昔からこうした繋がりがあったことが分れば、更に親密度が増すほか、中津川市民も、これら歴史的建造物を訪れた際には、見方が変わるのではないか」との感想も持たれていました。

当署としても、木曾ヒノキをきっかけとして、中津川市と他の市町村との交流の輪が広がることへの一端を担えるのではないかと期待しています。

(参考：納入先リストは、昭和四十五年三月に発刊された「付知営林署のあゆみ」より作成)



見市署長（写真右）より木曾ヒノキ備林の説明を受ける小栗中津川市長（同左）

こども園で森林教室を開催



【木曾森林ふれあい推進センター】

当センターでは、今年度から新たに、未就学児への森林環境教育の支援として、長野県木曾町にある四つの認定こども園で、森林教室を開催することになりました。

これは、子どもたちが森林に関心を持つきっかけづくりや、今後の保育士による森林環境教育の実践に繋がるよう支援するもので、十二月三日から順次各園を訪問しました。

開田こども園では、どんぐりの生態をクイズ形式で学んだあとに、園庭にあるミズナラの樹に聴診器をあてて音を聴いてみました。ミズナラの幹からの「ザーザー」「ゴトゴト」という音に園児たちは驚き、とても不思議そうにしていました。

また、あるこども園では、木を伐り過ぎて災害が起きた山に木を植えるという内容の紙芝居を観た後、はげ山を描いた模造紙に木のイラストを貼り付け、疑似的に植

林を体験しました。

園児数の多いこども園では、自然界での「食う食われる」の関係を学ぶ一風変わった鬼ごっこを体験し、園児たちは予定時間ギリギリまで楽しんでいました。

保育士からは「木曾の山の中で暮らしていることも少なく、小さい時から森林や自然環境について伝えてもらえてありがたい」と感謝の言葉をいただきました。

同じ町内でも、立地条件や園児数により実施するアクティビティに違いは生じますが、今後も各園の要望等を聞きながら開催していく予定です。



緑が戻ったお山と一緒に